



※イラストの指文字は相手から見た形です。

手話も覚えてみよう

vol.39

○ろう者の学校教育

日本初のろう学校は明治11年に古河太四郎ふるかわたしろうにより開院された「京都盲啞院」です。当初は手話言語をろう教育に活用していました。しかし、明治13年にイタリアのミラノ会議で手話言語を禁じ、口話法を推進することが決議されたのを機に、日本のろう学校でも長く口話中心の教育が行われてきました。当時のろう者は手話を使うと厳しく罰せられることも多く、苦しく辛い指導を受けたようです。

平成5年に手話が言語として認知された結果、手話は教育の手段として位置付けられ、現在は手話を使って学習指導が行われています。

やってみよう！～身近な言葉の手話～
普段使う言葉を手話でやってみましょう。

参観

1回目 → 2回目

右手の親指と人差し指で作った輪を目の前で2回、回します。

手話動画

過去に掲載した手話の動画は、YouTube (市公式チャンネル) で見ることができます。

問い合わせ先 福祉支援課障がい福祉担当 ☎(584) 1127 📠(584) 1154



自治会通信

vol.29

自治会加入が暮らしの安心につながります



自治会加入申し込みはこちら

広がる自治会活動のデジタル化

地域のつながりを未来へつなぐため、自治会ではデジタル化の動きが広がっています。

●自治会公式LINE続々開設中

現在、市内の全35地区のうち、10地区が公式LINEを開設しています。

仕事で忙しくて回覧板をゆっくり読む時間がないという人も、LINEなら通勤時間や家事の合間など自分のタイミングで見ることができます。地域行事のお知らせや行事の中止・変更の連絡などの緊急の情報もすぐに入手できます。



▲惣利地区自治会公式LINE

●SNSの新たな活用

昇町地区自治会では、公式LINEを利用した独自のポイント制度を導入しています。行事への参加などでポイントがたまり、たまったポイントを素敵な景品と交換できるので、楽しく自治会活動に関わることができると好評です。

LINE以外にもInstagramやXで、イベントの様子や行事を発信している地区もあります。

住んでいる地区のアカウントは地区だよりや自治会のウェブサイトなどで確認してください。

●対面のめくもりも忘れずに

「LINEがあれば回覧板はいらないのでは」という声もありますが、必ずしもそうではありません。回覧板の受け渡しをする際に交わすあいさつや何気ない会話は、いざという時に助け合える顔の見える関係を築いてくれます。

自治会活動の基盤は人と人の交流にあります。アナログとデジタル両方の良さを組み合わせることで、どの世代にとっても住みよいまちを目指しています。

問い合わせ先 地域づくり課協働推進担当 ☎(584) 1111(代) 📠(584) 1153